

外務大臣 林 芳正 様

「2030年までに世界の海の3分の1以上を海洋保護区とすること」への 国際署名 約400万筆を提出いたします

グリーンピース・ジャパンは、地球環境と人々の暮らしのために「行動するNGO」です。弊団体では、国連における世界海洋保護条約策定に向けて、継続して署名を集め、問題の重要性について世界規模で告知・啓発や各国政府への働きかけを行ってきました。

海はいま、生態系が壊れるほどの過剰漁業や、気候変動による酸性化や温暖化、プラスチック等による汚染など、様々な危機に直面しています。どこの国にも属さない公海は、地球の表面の43%を占める広大な空間で、豊かで多様な生命にあふれています。公海に生息する海洋生物は、水面で炭素を吸収し、海底深くに貯蔵する役割を担っており、この働きがなければ、私たちの大気中の二酸化炭素濃度は今より50%高くなると推測されています。気候ストレスが海洋生態系が直面する脅威を増大させる中、海洋生態系の健全性と回復力を高めることは、気候変動を抑え、生物多様性を守るだけでなく、日本を含め世界中の何十億もの人々の生活と食料安全保障を守ることに直結します。

そのためには、2030年までに世界の海の少なくとも30%を高度または完全に保護することが必要です。現在、海洋保護区は、世界の海の1%しかありません。既存の海洋保護の枠組みでは、セクターごとに管轄が限られることに鑑み、公海全域で、包括的に生物多様性を保護し、2030年までに世界の海の30%を保護区とする「30x30」を実現するために、十分に実効性のある世界海洋条約の決定が早急に必要です。日本政府がすでに「30x30」の支持を表明していることは、極めて重要な一歩であったと認識しておりますが、実際に「30x30」を実現させるために、更なる外交的リーダーシップを期待します。

世界中からの約400万筆（うち日本は16,381筆）の賛同署名を踏まえ、2022年3月7-18日にかけて行われる国連交渉では、現在及び将来の世代のために、世界の海洋生態系の運命をより良い方向へと導くべく、以下の項目を要請します。

要請事項

- これ以上の遅延なく、世界海洋保護条約を2022年3月に最終決定することへの機運を高め、高い野心を持つ閣僚級会合に積極的に参加すること
- 海洋のために可能な限り野心的かつ実効的な成果を確保するため、3月までに合意に至っていない課題を解決し、政治的合意に達し、共同文書で一致するよう、地域を超えて各国の閣僚級に対して、外交的に働きかけること
- 2022年3月に開催される交渉ラウンドに閣僚級の代表として出席し、社会的な注目と政治的オーナーシップを高めること

提出署名

グリーンピース・ジャパン『[神秘に満ちた海を未来へ](#)』署名キャンペーンのウェブページおよび世界各地のグリーンピースによるウェブページ等に寄せられた賛同署名、約400万筆のうち、日本サイトへの参加分16,381筆を、以下サイトよりダウンロードいただけます。

URL

(ダウンロードは2022年2月10日17:00まで可能です。上記リンクはメールでもお送りします)

以上